4月18日は「よい歯の日」

乳幼児の歯みがき中の事故に注意

〈防ぎたい！子どもの歯磨き中の事故〉

お子さんが自分で歯磨きをしている時に転ぶ、ぶつかるなどして、のどやお口に歯ブラシが刺さり、けがをする事故が相次いでいます。東京消防庁のデータでは歯磨き中の事故により搬送された件数はここ数年やや減少している程度です。

〈歯磨き中の事故防止のポイント〉

①歯磨き中の見守りは必須
②安全対策の施された歯ブラシを利用する
③その場を離れる時は歯ブラシを子どもに持たせない
④必ず座って歯磨きをさせる（歯ブラシを持って歩いたり走ったりさせない）
⑤歯磨き中に他の子がふざけてぶつからないようにする
⑥うがいの時も歯ブラシを子どもに持たせない

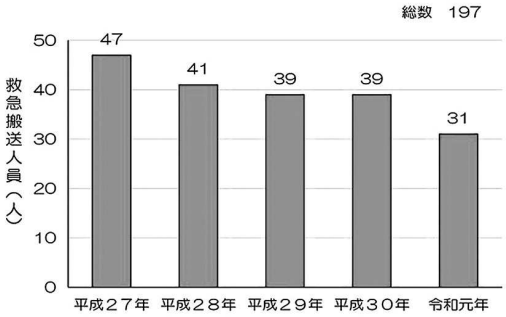

図１　年間救急搬送人数

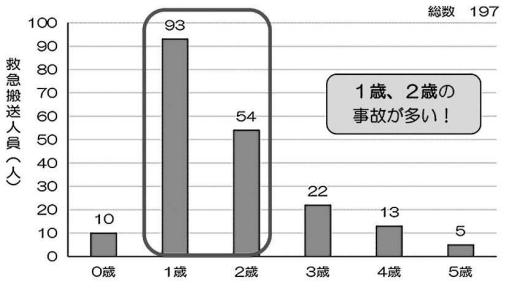

図２　年齢別救急搬送人数

〈年間救急搬送人数〉

東京消防庁によると平成27年から令和元年までの5年間に、5歳以下の乳幼児が歯磨き中に受傷した事故により、197人が救急搬送されています（**図1**）。

〈年齢別・受傷要因別救急搬送人員〉

1歳児が最も多く93人、次いで2歳児が54人となっています（**図2**）。歯磨き中に「歩いたり、走ったりして転倒」が65・5％で最も多くを占めています（**図3**）。このことから、歯磨き中には「歩かせない！走らせない！」ように保護者がそばで付き添い注意を払うことで、多くの歯磨き中の事故を未然に防止することができます。

〈初診時程度別救急搬送人員〉

救急搬送時の初診時程度をみると軽症が最も多く172人（87・3％）を占めています。また入院の必要がある中等症以上が25人（12・7％）を占めています（**図4**）。

〈事故事例〉

【事例1】歯磨きをしながら歩いていたらフロアマットにつまずき転倒し、口腔内から出血した。（3歳　軽症）

【事例2】布団で寝転んで歯磨き中、歯ブラシの柄が枕に当たり、口腔内を受傷した。（1歳　軽症）

【事例3】ソファの上で歯ブラシをくわえたままハイハイしており、親が目を離した際に床へ転倒し口腔内から出血した。（1歳　中等度）

【事例4】歯ブラシをくわえたまま歩いていたら、布団の上で転倒し歯ブラシが口腔内に刺さった。（3歳　重症）

（鶴岡地区歯科医師会）

《参考資料》東京消防庁―安心・安全情報―日常生活における注意情報―乳幼児の歯みがき中の事故に注意！消費者庁・独立行政法人国民生活センター
東京都生活文化局のリーフレット「乳幼児の歯みがき中の喉付き事故予防」

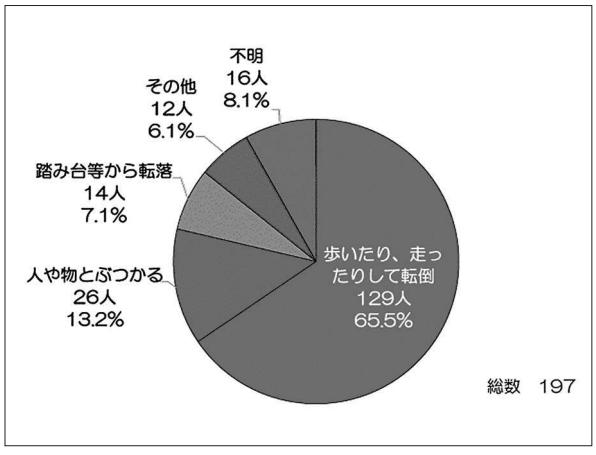

図３　受傷要因別救急搬送人数

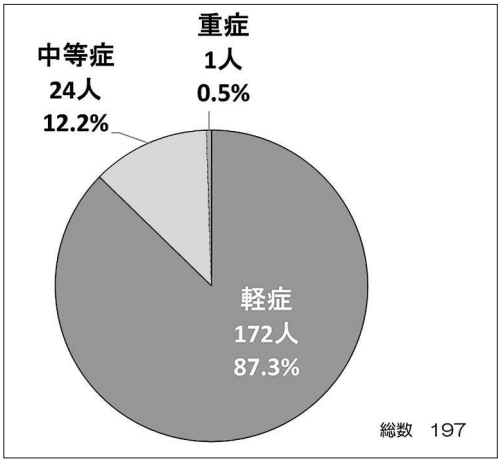

図４　初診時程度別救急搬送人数

重　症：生命の危機が強いと認められたもの
中等症：生命の危機はないが入院を要するもの
軽　症：軽易で入院を要しないもの